

みてみて

発行／
播磨町社会福祉協議会
ボランティア・センター
〒675-0147
播磨町南大中1-8-41
☎079-435-1712
H25.3.24発行

今年度の播磨町ボランティア連絡会



東はりま特別支援学校にて説明に耳を傾ける連絡会の皆さん

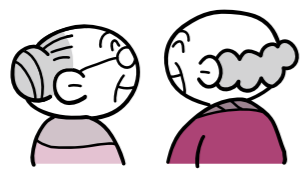
ボランティアセンター登録グループで組織するボランティア連絡会（以下、連絡会）が、親睦会や研修会を行いました。町内のボランティアさんも、普段の活動の中では、他のグループの方と接する機会はそう多くないのが現状です。グループ間で情報交換を行い、親睦をはかることを目的として活動されています。

<取り組みの一部をご紹介>

10月30日、「特別支援学校の現状を知る必要がある」という連絡会役員さんの思いから、県立東はりま特別支援学校で、生徒の日常や学校の取り組みについてお話を伺いました。

参加された方からは、

「実際に授業風景を見るのは初めてだった。支援学校が前よりも身近に感じられるようになった。」
「何か支援が必要なことがあれば協力したい」などの感想がありました。



恒例となった交流囲碁ボールでハッスル

2013年1月26日、町内のボランティアさんがいきいきセンターに集合しました。毎年開催している「ボランティアの集い」ですが、今年のテーマは、『心をくすぐる脳トレコミュニケーション～地域のおせっかい力を育てる～』でした。参加者は約210名。心をくすぐられるお話を聞きに、たくさんの方が集まって下さいました。200名を越えたのは久しぶりのことです。



講師はこの方、田川雅規さん（あそびの工房もくもく屋事務局長）です。2010年の集いでもご講演いただき、今回2回目です。「遊ぶことが仕事」と声を大にしておっしゃる田川さんの講演は、遊びと学びがバランスよく詰まった「お土産」いっぱいの内容です。当日は、風が強く寒い日でしたが、会場は終始暖かい笑いに包まれていました。



地域は、風が強く寒い日でしたが、会場は終始暖かい笑いに包まれていました。講師はこの方、田川雅規さん（あそびの工房もくもく屋事務局長）です。2010年の集いでもご講演いただき、今回2回目です。「遊ぶことが仕事」と声を大にしておっしゃる田川さんの講演は、遊びと学びがバランスよく詰まった「お土産」いっぱいの内容です。当日は、風が強く寒い日でしたが、会場は終始暖かい笑いに包まれていました。

生活をしている中で、こういった声を多くの方が耳にされるのではないのでしょうか。田川さん曰く、次の世代が芽吹きやすくなるために、敷居を下げるのがポイントとの事。あの手の手で「楽しそうに活動してるなー」と思ってもらえれば、人は集まってくるものです。年を重ね、経験を重ねることに、憧れをもってもらおうような、地域でそんな存在になるためには笑顔が基本とも言われました。恐い顔していませんか？難しい顔していませんか？難しいことに直面し、なかなかうまくいかない時、多くの人は不安になります。しかし、できなかったことができるようになることが嬉しくて人に話したくなることありますよね。ちょっとコツが必要な手遊びを紹介しながら、それを地域に例えお話をしました。そんな体験の連鎖が、地域の中で日々分かちあえるようなつながりができるといいですね。

ボランティアグループや自治会など各種団体に属しておられる方は多いと思います。属している理由は様々、「順番だから」「楽しいから」「後任が決まらないから」などなど。生活をしていく中で、こういった声を多くの方が耳にされるのではないのでしょうか。田川さん曰く、次の世代が芽吹きやすくなるために、敷居を下げるのがポイントとの事。あの手の手で「楽しそうに活動してるなー」と思ってもらえれば、人は集まってくるものです。年を重ね、経験を重ねることに、憧れをもってもらおうような、地域でそんな存在になるためには笑顔が基本とも言われました。恐い顔していませんか？難しい顔していませんか？難しいことに直面し、なかなかうまくいかない時、多くの人は不安になります。しかし、できなかったことができるようになることが嬉しくて人に話したくなることありますよね。ちょっとコツが必要な手遊びを紹介しながら、それを地域に例えお話をしました。そんな体験の連鎖が、地域の中で日々分かちあえるようなつながりができるといいですね。

地域は、風が強く寒い日... みんなの輪

～活動を通じて生き生きと～ 24年度介護支援ボランティア養成講座修了

愛称は「結い・はりま」...地域で高齢者を支えるしくみづくりをめざします！

介護支援ボランティアとは

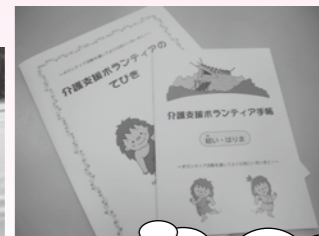
介護予防事業の一つとして播磨町地域包括支援センターが実施しており、地域でのボランティア活動を通じて元気で健康なココロとカラダを維持することを目的としています。

9月から11月にかけて開催し14名の方が修了されました。コミュニケーションについて、認知症の理解についてなど、各分野から講師をお招きし全5回のプログラムを実施。受講のきっかけを伺うと、「話を聞いてほしいという気持ちはよくわかるので、少しでもお手伝いできればと思った」や「以前家族の介護をしていた。社会の為にできることをしようと思った。」とおっしゃっていました。

修了後は、町内のデイサービスなどでの介助ボランティアから活動をスタート。活動1時間ごとにスタンプを一つ、指定の「ボランティア手帳」に押印してもらえらるしくみです。支援ボランティアさんの活動に注目です！



集団で気軽にできるレクリエーションも学びました



平成25年度講座
6月実施予定！
ぜひご参加下さい。

チャレンジ！福祉学習！～学校の取り組み～

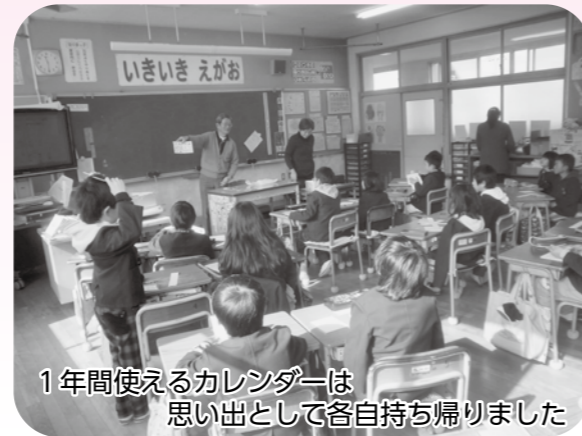
町内5カ所（播磨小学校、播磨西小学校、播磨南小学校、蓮池小学校、播磨南高校）を福祉教育指定校として、ご支援させていただいています。今年度の取り組みの一部を紹介いたします。

播磨小学校

播磨小学校3年生のみんなと、学園北シニアクラブの皆さんが交流事業を行いました。
毎年、同小学校3年生は地域の高齢者と交流する機会を設けています。同じ地域に住む住民として、年の差に関係なく今後も長い付き合いができるように、子どもたちとの距離を縮めていきたいとの意向があり、交流事業は一つの手段として捉えているとのこと。
「核家族化が広がる中で、自分のおじいちゃんやおばあちゃんと会うのも年に1～2回といった子も少なくありません。地域の皆さんには、子どもを見守るサポーターになってほしい。また、学校が地域にとって身近な存在とってもらえるように敷居を低くしたい。」と学年の先生はおっしゃいます。
シニアクラブからは8名が参加され、まずは子どもたちの合唱を鑑賞。その後、紙芝居や“からくりカレンダー”づくりを通じて交流を行いました。



みんな大好き給食タイム
会話が弾みます♪



1年間使えるカレンダーは
思い出として各自持ち帰りました

播磨南高校

3年生が受講する選択科目に「総合ボランティア」があります。今年を受講者7名で、毎回和気あいあいとした雰囲気の中進めます。
4月～9月までの期間で週に2回「ボランティアとは何か」をテーマに、様々なプログラムに挑戦しました。図書館で活躍する読み聞かせボランティア、被災地における支援活動の体験談、自己紹介文の点訳などなど。
音声ソフトの入ったパソコンを使用されている視覚障害のある方に来ていただいた時は、実際に入力した自分の名前が音声変換されるところを体験しました。
車いすに乗り、近くのお店へ買物に行った時は、
「店内には届かない商品がたくさんあった。」
「ツルツルに磨かれたフロアはタイヤがすべって方向転換が難しい。」
「車いすで町に出てみると道はデコボコだらけ。ほんのちょっとした手助けでものすごく助かる。」
など、たくさんの気づきがあったようです。
ボランティア活動は今まであまりしたことがないという生徒もいましたが、授業を通じて活動の必要性を実感できたように思います。今もどこかで、身近な誰かの支えになってくれることでしょうか。



要約筆記「ひまわり」による体験指導
要約して素早く書くって難しい～



視覚障害者の体験談
点字で自己紹介文を書き
その場で読んでいただきました

播磨南・西小学校

盲導犬ユーザー（※）をお招きし、盲導犬の役割や接し方についてお話を伺いました。子どもたちからの質問タイムでは、

①盲導犬はエサを食べないの？

②盲導犬を借りるのはお金がかかるの？

③盲導犬は、盲導犬として活躍するまではどうしているの？

こんな質問がありました。皆さんご存知ですか？（答えは下部にあります）
お話の最後に、街で盲導犬に出会った時は、触れない・エサをあげない・声をかけない・ユーザーに対しては「お手伝いしましょうか？」の声をかける、この「4つのお願い」が伝えられました。

（質問に対する答え）

- ①決まった時間に決まった量食べています。
- ②無料です。訓練には約500万円かかり、その費用は街頭募金等で成り立っています。
- ③1歳まではパピーウォーカー（ボランティア）の下で暮らし、それから約1年訓練を受けます。

（※）盲導犬の貸与を受けておられる方を「ユーザー」と呼びます。



蓮池小学校

4年生が手話について学びました。「聴覚障害者部会たいよう」と「手話サークルはりま」の方からご指導いただきました。「ニュースで見たことがある！」という声はたくさん出ましたが、実際に見たことのある生徒はほとんどいませんでした。
授業の中では手話のあいさつ表現だけでなく、ジェスチャーゲームも体験しました。「もし手話表現がわからなくても、身振りや手振り、筆談など、伝える方法はたくさんあるので、聴覚障害のある方に出会っても驚かず、気持ちを伝えたいという気持ちを大事にしてほしい。」というお話がありました。
終了後、「今度町で出会ったら、今日覚えた手話であいさつします！」と子どもたちは生き生きしていました。



「歩道がない道路では、車の音が聴こえないので注意が必要です」と話されました

「福祉教育指定校」には、皆様からいただいた赤い羽根の共同募金の一部を助成しております。

<ボランティア活動保険>25年度分受付中です

～兵庫県ボランティア・市民活動災害共済のご案内～

- ボランティア活動中（往復途上含む）の、万が一の事故に備えていただくためのものです。
- ▶補償項目 ボランティア活動中に被った急激な事故によるケガ
- ▶加入対象者 ボランティア活動に参加する方が対象で、社会福祉協議会への登録が必要です。
- ▶掛金 1名につき500円
- ▶補償期間 平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

活動に参加される方はご加入をお勧めします。
（お問い合わせ）播磨町ボランティアセンター TEL 079-435-1712